

2023 年 7 月 14 日

学校法人三幸学園
大宮ビューティー&ブライダル専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 吉川 邦彦

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 吉川 邦彦 (株式会社 Raise 代表取締役)
- ② 加藤 伸一朗 (株式会社 Luca 代表取締役)
- ③ 内田 誠 (株式会社きくや美粧堂 さいたま支店)
- ④ 相澤 友希 (第 8 期卒業生)
- ⑤ 小池 裕美子 (在校生保護者様)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 27 日 (会場 大宮ビューティー&ブライダル専門学校 6 号館 602 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 大宮ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者: 眞光 諒

学校関係者評価報告責任者: 学校関係者評価委員会委員長 吉川 邦彦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学校の規模が大きくなることで教員数も増え、指導の統一が図りにくくなっていた課題に対して、改めて指導の基本を徹底するという目標を掲げた。この目標を全教員へ浸透させることを目的として、各学科で生徒の成長ステップを明記した成長ストーリーを作成し、全教員が生徒を成長させるための教務運営を実施した。それに加えて、行事、ホームルーム、就職指導、授業などをすべて連動させて『素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材を育てる』ことを意識した教務運営を行った。広報面では役割毎に担当を立て、少数で方針を決定し全メンバーへ発信するという形を取ったことで、課題解決がスムーズに進み、結果的に昨年度より多い生徒に入学していただいた。また就職活動では、コロナ禍が明けて求人数が増えた企業も多く、早期に内定をいただいた生徒もいた。これまで同様、最終的に卒業生が後輩に本校を勧めたくなるような教務、就職指導を行う必要があり、ある程度は目標を達成したものの、次年度に向けてさらに底上げした学校運営が必要になると感じている。

② 学校関係者評価委員会コメント

相澤委員:(全学科)行事やオープンキャンパススタッフとして、自ら考えて動かないといけない場面を先生方が作り上げてくださり、かつサポートしてくれた。そこで培った力は就職した後でも活かしている。

加藤委員:(美容科・ヘアメイク科)4月より、2名ほど貴校を卒業した生徒が勤務をしている。しっかりとしている印象が強く、今後の成長も非常に楽しみである。

3.評価項目の達成及び取組状況

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

（1）教育理念・目標

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野共に学校の理念、目的、育成人物像は業界ニーズに向け方向付けをされており、明確に生徒、外部へ提示している。生徒へは入学直後の研修や 2 年間のホームルーム、学校行事等で周知をしており、保護者に関しては、オンデマンド動画にまとめ入学前に配信をしているが、まだ浸透が図れていない状況にある。関連企業様についても、訪問や企業連携を通して周知していきたい。

② 今後の改善方策

今後さらに保護者様への理解を深める施策と、関連企業様や業界への周知方法の構築が必要だが、一方的な情報発信ではなく、相互に情報交換ができ、理解しあえる関係性の構築を進めたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小池委員：（美容科）保護者として、理念やカリキュラムについて入学前に細かく把握はしていなかったが、娘が楽しく学校に通っていることがよく分かる。家庭ではサポートしてくれる先生の名前がよく挙がっている。このまま引き続き頑張ってもらいたい。

吉川委員：（美容科・ヘアメイク科）企業の人材育成について、近年はアシスタント→スタイリストへの目標の立て方やスピードに差があるため、個別対応を行っている。入社してモチベーションが高い状態のうちに、集中的に研修をしている。

加藤委員：（全学科）新卒スタッフに対して昨年度までは、コロナ禍もあり無料通信アプリ等で一日の振り返りを送信させていたが、今年度からは時間をしっかり割いて対面でのサポートを始めた。約半年間で働くうえでの土台を作ることにより、どの店舗へ行ってもやり方や道具の使い方が分かる状態にしている。直接対話をすることに意味があると思った。

内田委員：（美容科・ヘアメイク科）今までは「スタイリストになりたい」という明確な目標を持った生徒が多かったが、今は多様化が進み、まつ毛エクステンションやネイリストなども目指す生徒が多くなった。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的に沿った計画を基に事業計画を立てて運営をし、運営組織は年次ごとに組織構築し効率を図っている。外部への教務活動に関する情報は公開をされているが、周知や理解度は低いので周知活動が必要と感じる。情報システムの効率化も進んではいるが、まだ効率が悪い部分もあるので順次導入を進めていく予定。

② 今後の改善方策

教育活動の外部への周知を行ううえで、外部の情報も取り入れながら当校の取り組みも発信できるシステムや機会を増やす必要がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

内田委員:(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)コロナ禍が明けてサロン側も運営面で新たな悩みを抱えており、良くするための行動に移せていないところが多い。今後、運営や体制がまた変わってくると思うので、サロンと学校とで情報交換をし続ける必要がある。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

学校理念、業界等に照らし合わせた教育活動は適正に行われ、資格検定の取得に向けた枠組みも構築は出来ている。またカリキュラムは教育課程編成委員会での意見を参考にし、業界の人材ニーズに照らした内容編成を行っている。ただ、多様化する生徒に対応するための研修、情報を取り入れられる機会はまだ不十分に感じる点も多く、教員の対応力を高めなければならない。

② 今後の改善方策

今後は生徒と関わる全教員に向けて生徒理解を深められる研修を実施する。また、優秀な教職員を確保していくため、卒業生のキャリアステップとして教員という手段があることを浸透させていきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤委員：（美容科）在学中は美容室のショーなどにも招待をいただき、美容業界は『楽しそう・キラキラしている』と感じられた。また、年齢が近い美容師さんからのお話は貴重でとてもありがたいと思う。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野ともに就職率の大幅な向上が図れている。ただ、退学率の低減は引き続き課題となっており、生徒の人間関係構築力を上げていくための施策を考えなければならない。また、卒業後のキャリア形成の効果を把握するためにも、卒業生の活躍がタイムリーに分かるよう、学校との繋がりを作る必要がある。

② 今後の改善方策

コロナ禍を過ごした生徒の人間関係構築力を上げるために生徒同士、卒業生、企業様など、様々な立場の方とコミュニケーションが取れる機会を設ける。また、卒業生を対象とした「同窓会 LINK」を、より有効活用してもらえるよう検討をする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

吉川委員：(全学科)サロンスタッフとのディスカッションや座談会など、生徒が近い距離で自由に会話をさせる機会を設けることが退学率の低減に繋がると感じた。賛成意見や反対意見など、普段あまり発言をしない生徒にも、意見を述べさせると良いと思う。

加藤委員：(全学科)在学中に「目指す職業の良いところ」を生徒へ落とし込む必要がある。モチベーションの維持が大切。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

担任制で各クラスに担任がいる環境を作っているが、教職員のキャリアサポート力の平均化がなされていない点がある。就職活動では、生徒本人への指導は図れているが、保護者様との連携が取れていない面が課題。キャリア育成は学科により特有性はあるものの、概ね就職支援環境は整っている。

② 今後の改善方策

教職員のキャリアサポート力を向上させる為に企業訪問を行い、企業様が求めている人材像を把握し、生徒達へのキャリアサポートを実施する。生徒が求める就職先、職種が幅広くなってきたことに対応するため、キャリアサポートのチームを作り、就職率の向上に取り組んでいる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

相澤委員（美容科）：就活時は、外での自分を一番理解してくれている担任と、家での自分を理解してくれている保護者に相談をしていた。学校を卒業する前、母が自分には内緒で内定先に施術を受けに行っていたことがあり、身近にいる大人に客観的な意見をもらいつつ支援をしてもらうことが大事だと思った。

小池委員：（全学科）学校生活での状況も知りたいと思っていたので、担任とお話のできる機会があることに感謝している。一部モチベーションが低い生徒もいると聞いており、改善が図れると尚よい。

吉川委員：（全学科）以前より企業と学校の結びつきが強くなったと感じる。ただ、他校から紹介をしてもらった生徒だったのに、退職をしてしまったケースがあった。こういった部分も、在学中の様子などの情報交換を含め、より一層強く連携ができるようにしたい。

加藤委員：（美容科・ヘアメイク科）1年目は体力的にも厳しいと感じる部分があると思うので、保護者のサポートや不安を引き出す場面が重要。企業側では年齢に近い人がサポートできるような環境を作っている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

生徒増加により、施設や設備の整備が必要。

海外研修については、コロナ禍が明け、4年ぶりに実施予定となっている。

防災対策は整備されているが、より確実なものにする必要がある。

② 今後の改善方策

防災対策については、教職員会議での防災訓練や講習などを実施する。

施設、設備面については生徒の増加に合わせ今後整備を進める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

生徒募集と入学選考は適正に行われているが、「技能と心の調和」の心の教育の大切さを伝え、見せる場が少ない。

② 今後の改善方策

ホームページやパンフレット等で教育方針を伝える機会の増加を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

加藤委員：(全学科)SNSを駆使して広報活動をされており素晴らしいと感じている。SNS の投稿内容は生徒が作成をしていると伺い、今後の社会においても重要な経験が出来ていると思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第 2 次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第 3 次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価にもとづいた問題点の改善を図っているが教職員への周知徹底ができていない。

② 今後の改善方策

教職員への継続的实施と問題点の明確な洗い出しと迅速な改善策をする実践必要がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

昨年度より産学連携の取り組みが復活しており、生徒が外部へアウトプットする機会の増加と、地域貢献・社会貢献に関する活動をする機会が増加した。これからも引き続きコンスタントに機会をもらえるようなつながりを作ることが必要。

② 今後の改善方策

生徒に学び、成長のあるボランティア活動の増加のために、地域・関連企業との関係性の継続と開拓を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

加藤委員：（全学科）自社では、中学生の職業体験を積極的に受け入れている。学校の制服ではなく、好きな服装で来てもらい、報酬としてヘアアレンジ等を行ってあげるととても喜ぶ。ぜひ貴校のオープンキャンパスのノウハウを活かして、小・中学生のうちから業界の魅力を伝える機会を作ってみてほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナウイルスの感染が少し落ち着いたことで生徒や企業、保護者との連携の制限が少しずつ緩和された一年だった。対面でコミュニケーションを取りやすくなったことで、協力、連携体制をコロナ禍以前に戻すことを目標とし、全教員で取り組めたと感じる。

現在学んでいる生徒は高校生活をコロナ禍で過ごしていることもあり、コミュニケーション力の低下が危惧される。高校生活からのギャップを埋め、社会に出るための力を身に付けさせることを目標とし、各方面とこれまで以上に連携して生徒をサポートすることを目標として学校運営に努める。